

表紙

・原発事故は起きない「安全神話」から、起きてても大丈夫な「安心神話」へとすり替えられてしまう

P2

・さようなら原発全国集会報告

P3

・活動報告 生産者コラボ企画／立川稲刈り交流会
・組合員紹介 ・W.Co紹介

P4

・Esコープ大阪第6次中期計画
・エコロ給付状況報告
・子育てひろば案内
・理事会報告・おたよりネット・編集後記

原発事故は起きない「安全神話」から、起きてても大丈夫な「安心神話」へとすり替えられてしまう

片岡輝美さんは2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故が起こった直後から「放射能から子どものいのちを守る会・会津」や「会津放射能情報センター」を立ち上げ、行政などに要望を出す以外にも人の思いに寄り添う活動を続けておられます。福島県では「モニタリングポスト」(リアルタイム空間線量測定システム:以下、MP)の撤去計画など、私たちの知らない事実が次々と起こっています。生活クラブでも「リフレッシュツアー」を開催したり、「福島の子どもたちと知る権利を守る活動」として甲状腺検査活動に取り組んでいますが、私たちにできることは何かを改めて考える必要があるのではないのでしょうか。今回は、最前線で活動されている片岡さんに、震災から8年が経ち、報道されることも少なくなってきた福島県の現状について伺いました。(聞き手:環境担当常務理事 泉 容子)



片岡輝美さん

放射能から子どものいのちを守る会・会津
会津放射能情報センター 代表
モニタリングポストの継続設置を求める市民の会 共同代表
子ども脱被ばく裁判の会 共同代表

どんどん募る国への不信感

泉 「会津放射能情報センター」では、生活圏内の食品、土壌、衣料などの放射線量の測定をおこなない、数値の収集と情報の発信をおこなっておられますが、国や専門家の発表する情報を鵜呑みにするのではなく、市民の立場から主体的に情報を入手し、自分たちで安全かどうかを判断したいという思いに至られたのはどのような経緯からですか。

片岡 原発事故が起きる以前から平和運動に携わり、原発の危険性についても少しは知識があったので、事故直後に、当時の枝野官房長官が「直ちに健康に影響はない」という発言を繰り返したり、建屋の水素爆発を見ながら「大丈夫です」と話す専門家の様子が報道され危機感のなさや、危機感を感じさせないようになっている姿勢に違和感を感じました。また、事故後早い段階から福島県内各地で頻繁におこなわれた専門家による講演会では、被ばくの影響を過小評価する話ばかりでした。2011年5月の喜多方市の講演会での「今は国家の緊急時だから、国民は国家に従うべきだ」という発言には背筋が凍る思いがし、せめて子どもたちの生命を守るためにとセンターを立ち上げました。

本音を言い始めた国や福島県

泉 事故から8年が経ちましたが、国の対応は変わりませんでしたか。
片岡 2018年4月から、「モニタリングポストの継続設置を求める市民の会」を立ち上げ、公共施設や学校、保育所、公園など

共同代表

の空間の放射線量を測定、確認できるように設置されたMPの継続配置を求めて、若いお母さんたちと一緒に、原子力規制庁と交渉をおこなった際、驚くべき言葉を聞きました。私たちが「MPの目的は、線量の監視だけではなく、住民が自分で確かめるためのもの。今後、不測の事態が起こった時に自分たちで避難するかの判断基準のためにもMPは必要」と訴えたのに対し、原子力規制庁の担当者は「MPを見に行くことで無用な被ばくをする。今後事故が起きた場合は正確な指示を出すので、それまでは屋内退避をしてください」と言いました。原発事故が発生した場合の唯一の被ばく防護策は、安定ヨウ素剤を服用し、できる限り事故現場から遠くに避難することです。しかし、原子力規制庁がそれとは逆に、不測の事態が起きて避難は必要ないと言い始めました。これは住民が完全に避難できない状況を、まるで避難する必要がないかのように話をすり替えています。また、事故前の福島空間線量はかなり低く、事故後の除染は進んでいますが事故以前の状況には戻っていません。しかし、今では全国と同等の水準になっているので自分たちはそれで良いと思っ

ている。「ホットスポット(局地的に空間放射線量の高い場所)は除去すればいいのだし、皆さんはそれを認識しながらもそこで生活することを選んでる」ということを面と向かって言われました。

福島を原発事故から復興するモデルケースとして原発を推進

泉 今になってなぜそのようなことを言っ

たのでしょうか。

片岡 半径30km圏内の住民約96万人の避難計画も定まっていらないのに、原子力規制委員会は2018年9月に東海第二発電所(茨城県東海村)の再稼働に向けての安全審査に合格を出しました。また、日本の放射線防護対策の指針となる「国際放射線防護委員会(ICRP)の勧告」(2007年)により、年間の一般公衆の放射線被ばく線量限度を1マイクロシーベルト/年としていたものが20マイクロシーベルト/年に引き上げられるようです。今後は事故が起こっても基準内だから大丈夫、避難する必要もないということにしたいのでしよう。

また、2016年に8000ベクレル/kg以下の汚染土なら全国の公共事業に利用できるという方針を環境省が出しました。数値の高い汚染土も公共工事や農地造成のためにリサイクル使用しても大丈夫ということですが、安全を守るはずの基準はその時々都合良く変えられてしまうのです。原発事故をコントロールできなかった政府は、不都合な真実を隠すために情報と基準をコントロールし始めました。そして、今福島県で起きているのは、汚染土を利用し、汚染水を放出し、小児甲状腺がん患者が増加しても被ばくとは無関係とする「被害の見えない化」です。このようにして福島に住んでも大丈夫だという筋道が作られています。

原子力規制委員会だけでなく、「東京電力」旧経営陣3人が原発事故の責任を問う先日の裁判で無罪とされたように、司法までが国に付度し、電力会社を支えて原発の再稼働を後押ししています。国全体が大きく変わってしまっていることがわかります。

泉 私たちの住む近畿地方では、すでに2基の原発が再稼働しています。もし事故が起こった時には福島県の原発事故を事例にして避難は必要なしとなるのでしょうか。誰かが出してくれる情報の判断だけを鵜呑みにせずに、現場で起こっている真実に目を向けて発信していきます。自分で考えて判断する力が問われています。

フクシマを忘れない、原発なくそう!

さようなら原発全国集会

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により東北地方の太平洋沿岸を巨大な津波が襲い、町を飲み込む映像には言葉を失いました。さらに私たちに驚愕させたのは、東京電力福島第一原子力発電所の原子炉建屋が水素爆発を起こし、原子爆弾のようなキノコ雲がテレビに映し出されたことです。この事故を受けて、内橋克人さん(経済評論家)、大江健三郎さん(作家)、落合恵子さん(作家)、鎌田慧さん(ルポライター)、坂本龍一さん(作曲家)、澤地久枝さん(ノンフィクション作家)、瀬戸内寂聴さん(作家・僧侶)、辻井喬さん(実業家)、鶴見俊輔さん(哲学者)ら9名の呼びかけ人が、2011年6月から、「さようなら原発1000万人アクション」として一千万署名活動を、全国集会を同年9月にスタートさせました。事故を風化させずに、エネルギーを無限に浪費する生活を見直し、原発をなくし再生可能エネルギーを中心とした「持続可能な平和な社会」に向かうための行動である「さようなら原発全国集会」に、エスコープ大阪は毎年参加しています。

2019年9月16日(月・祝)に代々木公園(東京都渋谷区)でおこなわれた全国集会には、事故から8年が過ぎましたが全国各地から約8千人が参加。エスコープ大阪からは4名が参加しました。

首都圏にもっとも近い 老朽・被災「東海第二原発」を動かすな

茨城県の東海村にある「日本原子力発電」(以下、日本原子力)の「東海第二発電所」(原発)の安全性を認め、原子力規制委員会の審査(2018年9月)は不当であるとし、住民たちが運転差し止めを求めて訴訟を起こしています。集会では運転差し止めを求め、本木さゆりさん(関東子ども健康調査支援基金)共同代表、「放射能から子どもを守ろう関東ネット」共同代表)の訴えがありました。茨城県は福島県から120kmも離れていますが、福島第一原発事故の後で放射能プルームが通過し、ひどい汚染を受けました。関東には環境省が指定した「汚染状況重点調査地域」が51市町村(2011年12月28日時点)ありましたが、事故当時に汚染の状況が市民には知らされなかったために初期被ばくを避けることができなかったそうです。市民がおこなった土壌汚染調査で、初めて自分たちが「放射線管理区域」よりも汚染された場所に住んでいることを知り、水道水や母乳からも基準値を超える放射能が検出されていることがわかりました。本木さんはわが子を守るために必死で行動し、「子どもたちを放射能から守りたい」というたくさんの仲間と基金を立ち上げ、寄付金で検査機器を購入して小児甲状腺がんのスクリーニング検査活動を続けておられます。「8年経った今でも不安は消えません。子どもの方が細胞の分裂が早いので放射線の影響を受けやすい」ということを、多くの親が知らなければならぬ」と訴えました。

※1 気体状の放射性物質が大気中を雲のような塊となって流れる現象。

※2 放射線の不必要な被ばくを防ぐために設けられる区域で、放射線量が一定以上ある場所を法令により管理区域と定め必要な立ち入りを制限する。

「東海第二原発」を 再稼働させてはいけない3つの理由

● 安全性の問題

1978年運転開始の老朽原発「東海第二発電所」

は、東日本大震災で被災しています。事故当時は外部電源を喪失し、3日以上かけてかろうじて冷温停止しましたが、どのような被害を受けたのかすべてが確認できているわけではありません。

● 避難計画の問題

もっとも首都圏に近い原発で、30km圏内には14市町村約96万人が居住していますが、避難計画の立案は自治体任せにされていて、実効性は十分に審査されず懸念だらけです。原発事故が単独で生じるのではなく地震、津波、豪雨、積雪などと同時に生じる複合災害となることは十分考えられますが、それには対応していないようです。

● 経理的基礎の問題

また、事業主の日本原子力は東日本大震災以降、保有するすべての原発の運転停止が続き経営環境は厳しく、再稼働に必要な工事費用など約3000億円を自力で用意することは難しい状況です。再稼働後に受電することとなる「東京電力ホールディングス(株)」(以下、東電HD)や「東北電力(株)」からの支援が検討されていますが、東電HDには賠償や廃炉に多額の公的資金が注入されており、他社を援助などしている場合ではないはず。このような状況で、原発事故が起これば賠償の備えもありません。

8年経過してもまだなお続く

「福島原発刑事訴訟支援団」の地脇美和さんは、東京電力の当時の経営陣3人を業務上過失致死傷罪で起訴したことや争点について報告されました。「無責任なやり方を絶対に許すことはできない」と訴え、裁判で闘っています(2019年9月19日の東京地裁の判決は無罪)。また、福島県飯舘村蔵平(わらびだいら)地区の除染で出た廃棄物などを燃やす仮設焼却施設での勤務時に、適切な放射線防護対策が講じ

られないまま作業を強いられたとして、元作業員の「とも」さんが施設の管理会社に慰謝料などを求め起訴している「飯舘村焼却場被ばく労働裁判」についても、「避難の協同センター」の熊本美彌子さんから、国や県の追い出しにより住宅支援が打ち切られ2倍の家賃を払うよう一方的な通知が送られたことによる心労のため心を病んでいる避難者についてなど、原発問題で苦しめられながら闘っている報告が続きました。原発事故から8年経った今も収束せず現在も進行中であることを強く実感しました。

「一日でも早く原発をなくすために

集会後は、若者や外国人が多く集まる渋谷や原宿周辺でデモ行進しました。私たちの「原発いらなく」「原発止めよう」「再稼働反対」というコールに対して、沿道の人たちからは応援コールがあり、原発反対への思いを感じました。

日本は世界的にも地震の多い地域です。現在、再稼働している数少ない原発(5原発9基)のうち、大飯原発と高浜原発(どちらも関西電力)の2原発4基が福井県にあります。いつ、どこで、また原発事故が起こってもおかしくありません。原発は再稼働させてはいけません。

私たちは脱原発や再生可能エネルギーに切り替える運動をすすめています。一日でも早く原子力発電所をなくし、原発に頼らない持続可能な社会を実現するために、一緒に行動を起こしましょう。



新しい取り組み「生産者コラボ企画」

「生産者コラボ企画」は、生活クラブの提携生産者の協力のもと、組合員拡大をめざす新しい取り組みです。生産者がエスコープ大阪に加入していない参加者と直接顔を合わせ、試食などを交えて、生活クラブならではの消費材の特徴や詳しい情報を参加者にわかりやすく伝えてくれます。組合員には組合員外の知り合いと一緒に連れてきてもらえるように呼びかけ、当日は生産者と協力して加入をすすめます。今回は「秋のおさそいキャンペーン」中の9月に3会場で開催し、生産者と組合員、職員が力を合わせてエスコープ大阪の仲間づくりに取り組みました。

組織担当常務理事 糸川 江里子

- 株ミサワ食品**
 大阪市南・中河内地域
 堺市街地地域
 ①9月20日(金)
 レンタルスペースEXIA
 (大阪市浪速区大國町)
- 河内長野・大阪狭山地域
 南河内地域
 ②9月21日(土)
 SAYAKAホール
 (大阪狭山市)
- 株秋川牧園**
 泉州地域
 泉北ニュータウン地域
 ③9月23日(月)
 和泉シティプラザ
 (和泉市)

参加者集めに奮闘



隣接する2つの地域委員会の合同企画としてエスコープ大阪の配送エリア内の3会場を実施。合計で30名以上の組合員外の方の参加と、15名の加入を目指しました。地域委員会では、会場の選定やお友だちを連れて参加してみたいと思うような魅力的な企画にするためにいろいろな工夫をしました。また、お友だちを連れてきてくれた組合員や当日加入された方にはたくさんの特典も用意しました。案内チラシを配るだけではなかなか参加してもらえないことは難しく、電話や対面で参加を呼びかけ、3会場で19名の組合員外の方に参加してもらうことができました。

目標参加人数の30名には届きませんでした。声をかけた友だちからさらに友だちへと伝わって、グループでの参加もありました。改めて根気よく伝えることの大切さを感じました。



2生産者が協力してくれました

「株ミサワ食品」は「黒糖ふがし」や「レモンラムネ菓子」などのお菓子の生産者で、小さなお子さんのおられる方には特に聞いてほしい情報を中心

に、映像を交えて製造工程を説明していただきました。また、安心・安全なお菓子をとことん追求する生活クラブの組合員とのエピソードなどもユーモアたっぷりに話していただきました。市販品と消費材の食べ比べをして味や匂いの違いを体験し、参加者は安心・安全な消費材であること納得していました。また、市販品では安価に製造するためにどうしても由来の原材料が多く使われており、表示はされていないが遺伝子組み換えされている可能性が高いことを聞き、とても驚いていました。小さなお子さん連れのお母さんたちが真剣にメモを取っている姿がとても印象的でした。

「株秋川牧園」は、「やきとりセット」や「チキンナゲット」など鶏肉加工食品の生産者で、「丹精國鶏」の原料鶏肉「国産鶏種「はりま」を使って製造しています。同じく「はりま」を扱っている「丸本」とともに「はりま」の拡大に取り組んでいて、コラボ企画では「丹精國鶏」の試食や、市販品のチキンナゲットとの食べ比べをおこないました。参加者には「はりま」の取り組みだけでなく、

「丹精國鶏」のおいしさを体感してもらうことができました。

消費材の良さを体感し生協に加入

生産者のお話の後は、組合員と職員が参加者から感想を聞いて聞いて聞き取り、エスコープ大阪への加入をすすめる、11名が加入しました。「今までこれほど多くの当日加入はありませんでしたよ！」と生産者に言われたときは、とても元気が出ました。また、当初は加入を考えていなかった方が消費材の良さを体感しその場で加入されたり、「勉強になった」と会場を後にされる参加者の姿を見て、今後の組合員拡大の活動につながる手応えを得ることができました。地域委員からは「初めてのことで苦労もあつたが仲間が増えたのがうれしい。次回からは、もっとたくさん声かけをしたい」との声があり、参加者と話し合う中で考えに共感してもらい、その場ですぐ仲間になつてもうえたことは、主催する私たちにとっても良い刺激となりました。

楽しみながら仲間を増やす企画のひとつとして、今後も生産者コラボ企画に取り組みたいと思います。皆さんも、ぜひ組合員外のお友だちと一緒に気軽に参加してみてくださいね。



子どもと一緒に「立川米」の産地を訪問しました

消費委員会
立川稲刈り交流会
 9月14日(土)・15日(日)
 立川有機米研究会
 (山形県東田川郡庄内町)

消費担当理事 西尾 年代



さん学びました。江戸時代初頭、庄内平野は水利が悪く荒野で住民の暮らしは苦しかったのですが、城主の命で沢から水を引く大

消費委員会の理事・地域委員4名と子ども2名で新幹線を乗り継ぎ、山形県の「立川有機米研究会」の生産者を訪問し、おいしいお米のルーツと風力発電の発祥の地としての立川の魅力をた

わに実る黄金色の風景を見渡すと、

400年前は荒野だったなんて想像できません。いまの私たちが当たり前のように毎日食べるおいしいお米が多くの人たちのご苦労があつたの事を改めて知り、深く感動しました。

生産者の内藤さんの圃場で「ササニシキ」の稲刈り体験をさせていただきました。ササニシキは高温に弱く、肥料をまく時期など繊細な管理が必要な品種ですが、組合員が求めるお米として栽培基準にこだわり特別栽培米として作り続けられています。



豊かな自然が織りなす土地で生活される生産者の皆さんのにじみ出る優しい人柄がさらに、立川米のおいしさを引き立ててくれていると感じます。

いつも食べている食材の顔が見える訪問になりました。

紹介します!!
 うちの地域の組合員さんです

安全なものを
 食べたい
 意思表示を
 していきたい



田邊 和美さん
 [泉北ニュータウン地域]

毎月参加されている「エスチャネル」は同年代の先輩ママさんや親世代の方々との交流が楽しく、食事や育児のアドバイスも聞け、添加物、農薬、環境ホルモン、遺伝子組み換え作物など、気になるテーマについて話し合いができる貴重な場だと話してくれました。

お気に入りの消費材は牛乳・卵・ヨーグルト。エスコープ大阪の消費材に出会えて本当に良かったのでもっと多くの人にエスコープ大阪の取り組みを知ってもらい、そして未来を担っていく子どもたちも安心・安全を選んでほしいと望まれています。

聞き手 泉北ニュータウン地域委員 田中 みかは

GO! GO! 第10回
ワーカーズ・コレクティブ

ワーカーズ・コレクティブ 円(まどか)
 <福祉>



です。若手ワーカーの皆さんは「今まで家の中でやってきた家事が必要とする方にサービスマンとしておこなうこと、

で「こんなに感謝されるんだ」と、W.Coとして働くことで改めて感じられたそうです。人との関わりは家には感じられないもので、少しの時間でも社会とつながれる田での仕事に刺激を感じ、ワーカーのモチベーションにもなっているそうです。

設立理念である「住み慣れた地域で安心して暮らせるように、助け合いながら、誰もが自分らしく誰かが人間らしく生きるために」をスタッフみんなで実践されています。

※W.Co:ワーカーズ・コレクティブの略。非営利市民事業で、地域に必要なサービスマンを共同出資して自主運営し、みんなで働く。地域に必要な「ト」モノを自ら生み出し、地域貢献の視点をもつ。

「W.Co」は1997年12月に設立され、今年で22年になります。泉北高速鉄道「光明池」駅周辺(駅から徒歩または自転車移動できる範囲)で介護保険制度外のサービスマンを提供しています。ワーカーの内容は、家事支援を中心に、介護に関することや子育て家庭への支援、夏期には水やりなどをおこなっており多岐にわたり、地域に根ざして活動されています。

ワーカー不足が課題になっているW.Coもある中、田では若いスタッフが増えてきていて、次の世代への引継ぎもすすんでいるそう



第6回 理事会報告 <10月2日>

【8月度決算報告】

- 供給高 1億6,335万円(前年同月比93.2%)
- 組合員数 19,517名(前月比-49)
- 一人あたりの出資金 80,373円

【9月の放射能検査結果】

9月は連合消費材771検体、エスコープ大阪独自の消費材5検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①「エコロ制度」改定に伴う規程・別表の改定について(再提案)
- ②大阪府最低賃金の引き上げに伴う「嘱託パート職員賃金規程」の変更について

【協議事項】

- ①「生活クラブ関西6生協青果政策」実行方針(具体案)について
- ②エスコープ大阪設立50周年事業の概要報告(PJ報告)
- ③2019年度リフレッシュツアーまとめ(開催報告と2020年度受け入れについて)
- ④5月『竜おうみ米』登録推進月間の取り組みまとめ
- ⑤7月地場野菜推進月間の取り組みまとめ
- ⑥年度方針「消費材開発(関西企画消費材)をすすめます」についての提案
- ⑦「生活クラブでんき」冬の節電キャンペーン
- ⑧全地域取り組み「3月のGM学習会」について
- ⑨エコロ制度ガイドブックの内容確認について
- ⑩エスコープまつり2019について
- ⑪大阪市南・中河内地域の地域チャレンジ取り組み生産者と品目の決定

【報告承認事項】

- ①福祉事業推進会議の愛知視察への参加に伴う追加支出について

エスコープ大阪では第6次中期計画として、いろいろなことを生み出すための基礎づくりをすすめていきます。「人が人としていきいきと生きていける持続可能な社会をつくる」ために、またその活動を広げていくためのヒト・コト・モノ・ハコをつくり出します。

今回は、中期計画の実行方針である「人づくりとつながりをさらにすすめていきます」という方針の中から、「エスコープ大阪設立50周年事業をすすめます」についてお伝えします。



設立翌年の1971年に開催された第1回通常総代会の様子。

第1回の議案書はすべて手書きでした。



各近隣センターには1業種1店舗しか入居できなかったため、お店も少なく、店どうしの競争がないので物価が高く、「ニュータウン物価」という言葉まで生まれました。

その後、組合員数の増加に伴い、取組品を増やすためにさまざまな生産者と出会い、産直や提携関係を築いています。その背景には経済の高度成長期に起こった環境問題や食を取り巻く問題もあります。機関紙「りっふる」では次年度、私たちの50年の歴史を振り返るスペースを設けて伝えていければと思っています。

現在、大阪府には10法人の消費生活協同組合(生協)がありますが、設立50年を迎える生協はほとんどありません。理事会では来年の設立50周年に向けての準備を始めていて、組合員と生産者、ワーカー・コレクティブなどの関連団体と一緒に盛上げていきたいと思います。第一弾として、今年中に来年度一年間に使用する設立50周年記念ロゴマーク案の募集を予定しています。一次選考をクリアした方やロゴマークが採用された方には素敵なプレゼントも用意します。組合員であればごなかたでも応募できますので、配布されるチラシをお見逃しなく!

(専務理事 石川雅可年)



エスコープ大阪 第6次中期計画

もうすぐ50歳

私たち「生協エスコープ大阪」は1970年の大阪万博の年に泉北ニュータウンで「泉北生協」として設立されました。「新しい街、新しい共同、新しい生活」がその当時のスローガンです。泉北ニュータウンもまだまだ開発途中で、順次完成したエリアから入居が始まり「新しい街」が形作られました。計画的に創られた街は緑道(歩道)を通れば車道を一度も横断することなく安全にバス停や電車の駅、近隣センターと呼ばれる店舗や金融機関、医療機関が集まったエリアに着けるなど、工夫された設計になっています。しかし、当初は、

各近隣センターには1業種1店舗しか入居できなかったため、お店も少なく、店どうしの競争がないので物価が高く、「ニュータウン物価」という言葉まで生まれました。そのような買い物しづらい環境の中、約800世帯が集まり、「新しい共同、新しい生活」の仕組みとして生協が作られました。食料品や生活必需品を共同で仕入れて少しでも安く手に入れることが最大の目的でした。生協独自品は牛乳(200mlのびん牛乳)のみで、それ以外のものは市販品を扱っていました。野菜も生協職員が仲買人の資格を取って中央市場に仕入れに行っていたそうです。設立当初は、組合員宅一軒一軒を訪問し注文を取って配達と集金をする「御用聞き」をしていて、なんと生協の配達の形は個人配達からスタートしていたのです。次第に組合員数が増え、このような配達ではできなくなり、組

合員は班を作り週2回の配達になりました。その後、組合員数の増加に伴い、取組品を増やすためにさまざまな生産者と出会い、産直や提携関係を築いています。その背景には経済の高度成長期に起こった環境問題や食を取り巻く問題もあります。機関紙「りっふる」では次年度、私たちの50年の歴史を振り返るスペースを設けて伝えていければと思っています。

おたよりネット

「りっふる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

201号表紙「みかんシーズンイン みかん農家としての視点」を読んで

紙面モニター Aさん

2年ほど前に和歌山県下津の「豊共園」での晩柑狩りのツアーに参加したことがあります。訪問した際に聞いた「農業で亡くなったみかん農家がいる」という話がずっと心に残っています。気候などの変化で農家として先代よりも厳しい状況の中で減農薬、有機質肥料で作る思いを引き継いでいることに頭が下がる思いです。収穫量は減っていても私たちが食べる意志を示すことが大事だと思います。

201号2面「シーズン予約でみかんを食べる意味」を読んで

紙面モニター Bさん

「豊共園」とのつながりがどのようにして築かれたのかを40年以上前のことから書かれていて、地道な活動が今につながっているのだなと感じました。表紙の記事と同様、現状の問題点やご苦労もわかり、シーズン予約で食べることの意義も理解することができました。

Ripple おたよりネット

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはXで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事會事務局行き
203号(2019.11.18)

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

| エコロ制度 10月度報告 | | |
|--------------|-----------------------|-----|
| 加入者数 1,299名 | | |
| 給付状況 | 組合員活動を支えるためのケア | 0件 |
| | 組合員活動中の共同購入品受け取りケア | 1件 |
| | 加入者本人の入院・通院・在宅療養に伴うケア | 1件 |
| | 加入者家族の入院・通院・在宅療養に伴うケア | 0件 |
| | 加入者本人の産前産後のケア | 0件 |
| | 長期に留守をする時のケア | 2件 |
| | リフレッシュのためのケア | 1件 |
| | 儀式・行事に伴うケア | 0件 |
| | 高齢の加入者をサポートするケア | 11件 |

| エスコープ大阪の子育てひろば | | |
|-----------------|------------------------|--|
| 日時 | 会場 | |
| 12月18日(水)10~12時 | 大阪狭山市立公民館(河内長野・大阪狭山地域) | |
| 12月17日(火)10~12時 | さつき野東集会所(南河内地域) | |
| 12月12日(木)10~12時 | 泉佐野市生涯学習センター(泉州地域) | |
| 12月24日(火)10~12時 | 和泉市コミュニティーセンター(泉州地域) | |
| 12月6日(金)10~12時 | ファインプラザ大阪(泉北NT地域) | |

*開催時間内であればいつ来ても、帰ってもOK
*組合員でないお友達との参加もOK *事前申し込みは不要
*お茶代100円(大人のみ)をいただきます

編集後記

エスコープ大阪では、年に一度のお祭りとして、たくさんの方の生産者や関係する団体などを招いて「エスコープまつり」をおこなっています。この原稿を書いている今はその準備と機関紙の編集に追われている真っただ中。毎年まつりが近づくとその年の総仕上げのような気持ちになり、無事に終われば今年一年無事に終わったなと思える瞬間を迎えます。(K)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/